

第26回参議院議員選挙に際して
LGBT (SOGI) をめぐる課題に関する
各立候補者の政策と考え方に関する調査のお願い

政党名 (日本共産党)
選挙区 (比例代表)
候補者名 (佐々木とし子)

問1. 個人の選挙公約に性的指向・性自認に関する人権を保障する施策について記載はありますか。(選択式)

1.記載がある

選択肢： 1.記載がある
2.記載はないが、取り組む予定である
3.記載はなく、取り組む予定もない
4.その他 ()

問2. 超党派の「LGBTの課題を考える議員連盟」で2021年5月に与野党合意に至った法案についてご意見をお聞かせください(選択式)

1.賛成

選択肢： 1.賛成
2.反対
3.その他 ()

問3. 性的指向及び性自認に関する法整備について、いつまでに成立させるべきとお考えですか(選択式)

1.早急に成立させるべきだ

選択肢： 1.早急に成立させるべきだ
2.法整備は必要だが、さらに検討を重ね、国民的合意を図るべきだ。
3.法整備の必要性について、引き続き議論すべきだ。
4.法整備は必要ない
5.その他 ()

問4. 以下の各分野の課題について、どのようなスタンスでしょうか。（選択式）

<選択肢> 1. 賛成、2. どちらかといえば賛成、3. どちらかといえば反対、4. 反対
その他

(1) LGBT に対する（性的指向・性自認に係る）、差別や不利益取扱い防止・禁止する法律やルールを制定すべきだ。

1. 賛成

(2) 学習指導要領に盛り込み義務教育の中で性的指向・性自認の多様性について子ども達に教育すべきだ。

1. 賛成

(3) 学校における、LGBT へのいじめ・ハラスメントの防止体制を確立すべきだ。

1. 賛成

(4) 多様な性自認・性的指向に基づいた適切な対応ができるよう、教育現場や医療現場など各分野の実態調査を行い、結果を公表すべきだ。

1. 賛成

(5) 性的指向・性自認に関する職場の取り組みについて、国が広くガイドラインを策定するなど、企業等の取り組みを積極的に支援すべきだ。

1. 賛成

(6) 困難を抱く「LGBT」等当事者に対する、相談・支援の仕組みを、学校・職場・地域等に整備すべきだ。

1. 賛成

(7) 相続や各種の補償などについて民法上、同性パートナーが配偶者として扱われないことで生じる不利益を、同性パートナーも配偶者として同等に扱うことで、解消すべきだ。

1. 賛成

(次のページへ続きます)

問 5.性同一性障害特例法の見直しについて、下記の背景を踏まえて、お答え下さい。（選択式）

〔背景〕

戸籍の性別変更の要件は、性同一性障害特例法（2003年成立、2008年改正）で定められています。しかし、WHOの国際疾病分類第11版（ICD-11）が2022年1月から国際的に発効し、「精神障害」の分類にあった「性同一性障害」が削除されて「性の健康に関する状態」分類の中に「性別不合」（日本精神神経学会仮訳）として位置づけ直されたことに鑑み、同法を改正する必要があると指摘されています。また、海外の現状と比べると要件が厳しすぎるとの指摘もあります。現在要件外の当事者についても、円滑な社会生活を行えるよう、改正を求める強い要望が当事者団体などから出されています。たとえば、

- ・ 「現に未成年の子がいないこと（子なし要件）」に関して
→未成年の子どもがいても、子どもが親の外見等の変更を受け容れていたり、円滑で安定的な就労による子の扶養のためにも、性別変更が望ましいと思われるケースが少なくない。性別変更を認める諸外国（イギリス、フランス、イタリア等）では、こうした要件を課す国はない。
- ・ 「手術要件」に関して
→既に海外では手術を性別変更の要件にしない国が増えつつある（現在73ヶ国）。WHOの勧告にあるように、戸籍の性別変更手術を要件とすることは、人権上問題である。また身体的・経済的負担が非常に大きいことから問題であり、外すべきである。
- ・ 「非婚要件」に関して
→特例法では性別変更にあたり「現に婚姻していないこと」を要件にしている。この「非婚要件」については近年ヨーロッパ諸国を中心に同性婚が認める国が増え、そのような国々を中心にこの要件は廃止となっている。

<選択肢>

1. 積極的に見直して改正すべき
 2. 改正が必要か否か検討すべき
 3. 見直す必要はない
 4. 答えられない／わからない
- その他

- (1) 子なし要件を削除し、家庭裁判所による個々の事情を踏まえた判断にゆだねる
 - 1.積極的に見直して改正すべき
- (2) 手術要件を削除する
 - 1.積極的に見直して改正すべき
- (3) 必要な関連法改正を行ったうえで、非婚要件を削除する
 - 1.積極的に見直して改正すべき

(次のページへ続きます)

問 6. 最後に感想や、当事者やその家族の皆さんへのメッセージなど自由にコメントをお願いします。

アンケートは以上となります。

ジェンダー平等を参院選の一大争点と考えます。昨年自民党によって提出を阻まれたLGBT新法は、差別の禁止と解消が明記されていません。さらに踏み込んだ「LGBT平等法」の成立を目指します。同時に、同性婚を認める民法改正を求めます。また、教育現場で差別が再生産される実態もあります。国際基準に則った包括的性教育を公教育に導入させます。この国で性をめぐる差別が横行するなか、いかなるSOGIであっても尊厳をもって自分らしく生きられる社会というのは、けっしてLGBTQをめぐり人権が保障されるにとどまらず、あらゆる人間が人間らしく生きられる社会です。これから先、生きづらい日本を変えて、だれも性をめぐる差別や偏見で悲しまないようにしたい。だれもが自己肯定感にあふれ、自由と希望を語れるようにしたい。社会のあらゆる場面ですべてのSOGIの平等がつかぬ社会へ、全力で頑張ります。全国で人口の半分以上にあたる自治体で、パートナーシップ制度が作られています。国として同性婚を認めないのは、国際的にもきわめて遅れた態度です。自民党は、市民有志による公開質問状に「差別を禁止するよりも」などと差別解消を真っ向から否定する立場を表明し、6月には同性愛を性自認ではなく病気だとする非科学的なパンフレットを配布しています。こうした差別的な政権与党に政治を担わせるかどうか、この選挙で問われていると考えます。みなさんに心より連帯して選挙に臨みます。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。